

推薦意見書
(抜粋)

《 追 加 》

Ⅱ 推薦理由

1. 駿東田方医療圏

1) 医療圏の特徴

駿東田方医療圏は、10市町、総人口約68万人、静岡県東部地域と伊豆半島の中央部までをカバーする医療圏で、隣接の賀茂医療圏からも患者の流入がある。しかし、圏域内には400床以上の医療機関が4病院と、県内でも中核となる総合病院が少ない地域でもある。その中で、今回推薦の2病院（何れも400床以上）は、以前より、医療全般に渡り地域の中核病院としての役割を果たしてきた。

この医療圏には、都道府県がん診療連携拠点病院として静岡県立静岡がんセンターが指定されている。

2) 圏域内および隣接圏域における機能分担の状況

・沼津市立病院は、2病院の中で圏域の北西部に位置し、受療患者は沼津市を中心に圏域の中西部に多いことに加えて、御殿場市等、圏域の北東部の患者も受け入れており、これらの地域をカバーする。

・順天堂大学医学部附属静岡病院は、圏域の最南部に位置し、周辺の伊豆市、伊豆の国市を中心に、隣接する熱海伊東医療圏の伊東市からの受療患者がある（対象人口30万人弱）。さらに、賀茂医療圏からも病院全体の受療患者の約2割を受け入れているが、賀茂医療圏（人口約7万8千人）には、200床以上の総合病院が無く、この地域の住民は医療圏を越えて、同病院への医療依存度が高い。賀茂医療圏では指定用件を充足するような医療機関の確保が困難なことから、当分の間、

補完的役割を果たして行くものと考えられる。これについては、賀茂圏域の医療関係者も了承済みである。

・機能的には、主として、沼津市立病院は、乳がん手術に加え、肝臓がんのラジオ波焼灼術や大腸がんの腹腔鏡手術等の非観血的治療を、順天堂大学医学部附属静岡病院は、消化管や呼吸器、肝臓悪性腫瘍の観血的手術に加え、泌尿器悪性腫瘍手術等を分担している。

3) その他推薦医療機関の特徴

i) 沼津市立病院

・在宅医療について地域医療支援推進センターを設置し、医療福祉に関する相談に当たるとともに、病診連携にも力を入れており、紹介、逆紹介率が高く、地域の医療機関との連携が密である。

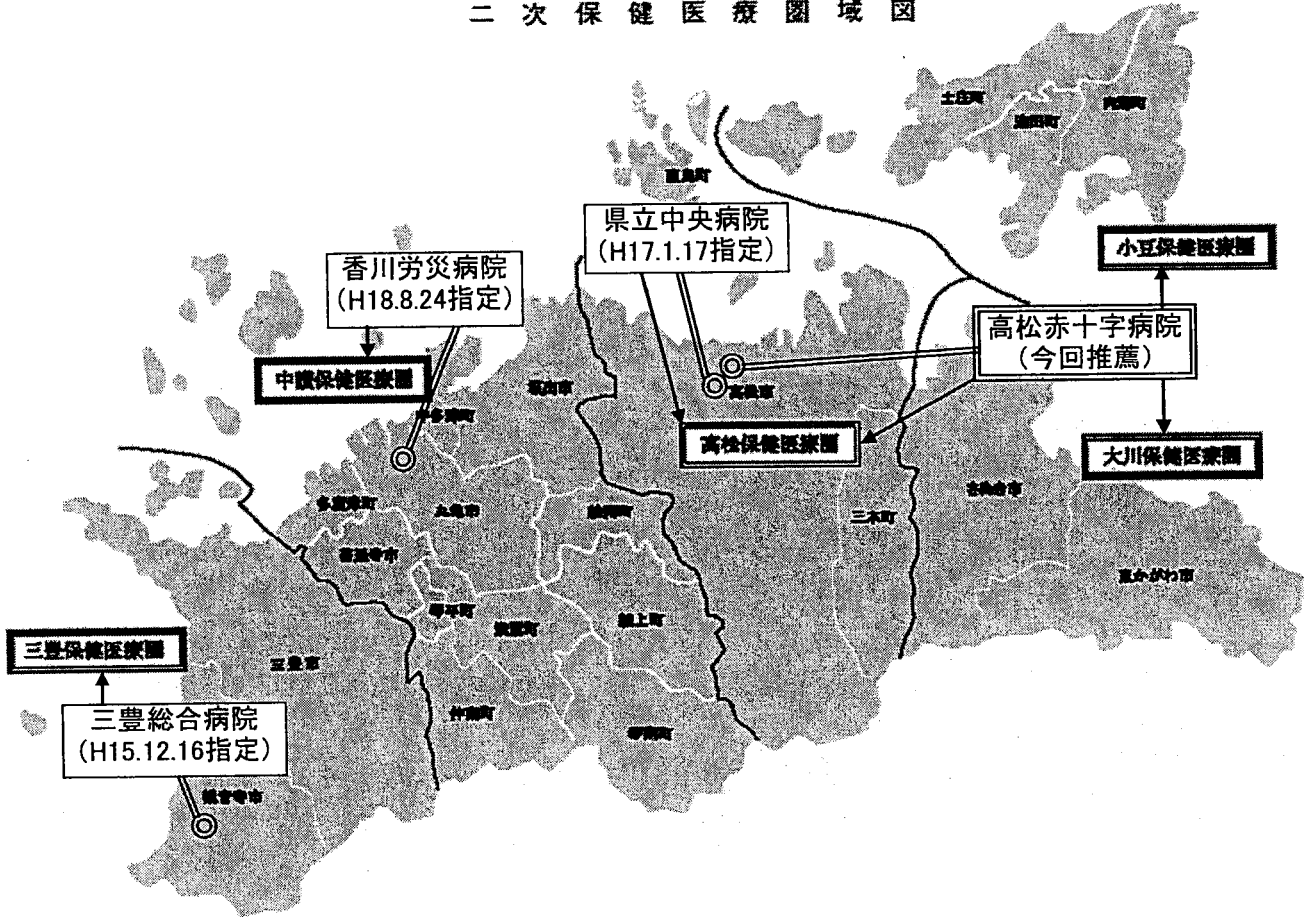
・推薦2病院の中では最も早くから、緩和ケアチームとして医師・看護師・薬剤師・作業療法士のチームを編成し、院内外の患者に対応している。

香川県 2次医療圏の概要

1. 圏域図

※所属する2次医療圏が分かるよう、がん診療連携拠点病院名を記載すること。

二次保健医療圏域図



2. 概要

(面積・人口:平成16年10月1日現在、病院数:平成18年10月1日現在)

医療圏名	面積(km ²)	人口	人口割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院		
						既指定病院数	今回推薦病院数	計
大川保健医療圏	312.22	93,748	9.20%	300.26	6			
小豆保健医療圏	170.01	34,174	3.35%	201.01	4	1	1	2
高松保健医療圏	465.05	452,395	44.38%	972.79	43			
中讃保健医療圏	588.84	301,621	29.59%	512.23	31	1		1
三豊保健医療圏	340.11	137,496	13.49%	404.27	16	1		1
計	1,876.23	1,019,434	100.00%	543.34	100	3	1	4

注) 大川、小豆、高松の3医療圏で、2病院を整備する。(別紙「香川県における地域がん診療連携拠点病院の整備方針」参照)

(参考) 県保健医療計画においても、医療圏内に適当な病院がない場合は、隣接する医療圏において整備する旨記載している。

推薦意見書

高松赤十字病院

高松赤十字病院においては、がん診療の多くの専門分野で集学的治療等が実施されており、また、我が国に多いがんについても十分な治療体制、連携体制が確保できているなど指定要件を満たしている。

また、病院群輪番制病院、救急告示病院、災害拠点病院、へき地医療拠点病院、エイズ診療拠点病院、臨床研修指定病院の指定を受けるとともに、地域医療連携室や開放病床の設置、地域への医療機器の開放など、地域の中核的な医療機関としての役割を果たしている。

さらに、香川県医療審議会においても、大川保健医療圏、小豆保健医療圏、高松保健医療圏を対象に、県立中央病院（平成17年1月17日指定済）とともに高松赤十字病院を整備する計画が承認されている。

以上のことから、当該病院が地域がん診療連携拠点病院として適当であると考えられる。

（参考）高松医療圏内に2病院を整備する理由

高松医療圏では、既に県立中央病院が指定を受けているが、次の理由から、2箇所目として高松赤十字病院を推薦する。

（1）複数の医療圏を対象

隣接する大川、小豆の2医療圏においては、候補となる病院がないことから、高松医療圏に整備する病院に対して、3医療圏を対象とした拠点病院活動を求めざるを得ない状況であること。

（2）拠点病院の負担の軽減

3医療圏の面積は本県の半分を占め、人口も過半数を超える55万7千人余と大きいことから、この地域を1病院で担当するとなると、他の医療圏（中讃、三豊）の病院と比べ負担が大きいこと。